

News Release

クレオ、CRCソリューションズと会計システムを共同開発

両社の強みを結集、高品質・汎用性・短納期を狙う

株式会社クレオ
2004年4月15日

株式会社クレオ（本社：東京都港区 代表取締役社長：秋山 雅幸、以下クレオ）は株式会社CRCソリューションズ（本社：東京都江東区 取締役社長：杉山 尋美、以下CRC）と会計システムを共同開発することを発表します。

今回の共同開発の目的は、会計パッケージの販売ターゲットの拡大を狙うクレオと、システムインテグレーションのツールとして、汎用化された会計システムコンポーネントを整備したいCRCソリューションズが、それぞれのノウハウを提供し、開発資金を出し合うことにより、質が高く、汎用性のある会計システムの開発を短期間で実現することにあります。

クレオのノウハウ、CRCのノウハウ

クレオでは、発売以来10年、中堅企業を中心に400社を超えるに企業に販売した「CBMS会計」のノウハウを持っております。クレオでは現在中堅企業向け会計パッケージ「CBMS会計」を販売していますが、この今回開発したシステムを「CBMS会計」の上位製品とし、販売市場の拡大を狙います。

一方、CRCソリューションズでは流通分野の大企業を中心に多くの会計システムを提供してきた豊富なノウハウがあります。両社は、それぞれの強みとノウハウを持ち寄り、結集させることにより、品質が良く汎用性のあるソフトウェア製品の短期間での開発を実現します。

クレオが狙うマーケット

「CBMS会計」は、国内外の大企業向け会計パッケージと比べると、経理業務担当者が理解できるわかりやすいパッケージであること、日本独自の業務へ対応していること、更にはコストパフォーマンスが高いことが特徴です。

また、中小企業向け会計パッケージと比べると、機能レベルの高さと処理容量の大きさが特長となっています。「CBMS会計」と国内外の大企業向け会計パッケージとの価格差は大きく、クレオでは、大企業向け会計パッケージレベルの機能と性能をもちながら低価格、更には日本独自の業務へ対応したパッケージとして今回の共同開発システムを市場に投入し、价格的に「CBMS会計」よりも上位のマーケットを取込むことを狙いとしています。

プラットフォームに Microsoft.NET を採用

共同開発コンポーネントのプラットフォームには Microsoft.NET を採用しています。Microsoft.NET はマイクロソフト社の長期プロダクトロードマップに準拠したプラットフォームです。システム開発コストと顧客導入コスト、会計システムの周辺システムも含めた開発生産性、将来性という 3 つの点を他のプラットフォームと比較検討し、Microsoft.NET を採用しました。

尚、リリース時期や価格については未定です。

株式会社クレオについて

クレオは、企業の基幹業務ソリューション用パッケージを提供する C B M S 事業、官公庁や企業向けにシステムを構築するシステムインテグレーション事業、「筆まめ」などのコンシューマ向けパソコンパッケージソフトの開発・販売を行なうプロダクト事業を中心に事業展開しています。C B M S 事業につきましては、「C B M S 会計システム」の他、「C B M S 人事給与システム」「C B M S We」の開発販売もおこなっています。

株式会社CRCソリューションズについて

株式会社CRCソリューションズは 1958 年に設立され、流通分野の S I 事業に強みを持つ情報サービスのパイオニアです。お客様のビジネスニーズに立ち、IT とビジネスのさらなる融合を追究しております。すなわち、IT コンサルティングから、ソフトウェアの設計・開発・保守、データセンターでの運用に至るトータルソリューション & フルサービスが特徴です。今日まで会計システム、業務システム、経営支援システムなどで数多くの実績を有しております。

また、現在、横浜・神戸・東京大手町の 3 拠点に立地する最先端のデータセンターを軸とした「アウトソーシングサービス」も強力的に推進しております。